ハレノヒ

大田区立松仙小学校
令和５年９月１２日（火）
裏研究推進だより第４号
研究推進担当

体育話題提供授業 協議会記録
授業者 2年担任

導入

展開

終末

成果

◎場の準備
・準備が早く運動量の確保に繋がった。

◎場の工夫
・種類が複数あって出来るような仕掛けがあった。（肋木のカラーテープ等）

◎掲示物
・動きの手順やコツがまとめられていた。

◎グループ設定
・やってみタイムでペアと主体的に遊んでいた。

◎テーマ設定
・宝島で宝を見つける（動きのコツ）ことが児童の実態に即していた。

課題＆疑問

◎場の安全と楽しさの両立
・運動遊びの動線やマットの距離感の設定

◎遊びの中での価値づけ
・遊びの質を高めるために、良い動きは価値づける。

◎伝えタイムの話型
・グループやペアに伝えるための話型があると、交流がしやすくなる。

◎テーマをより生かす
・宝（技能の高まり）をシール等をペアで「集めた」宝探しができるとより良い。

＜授業者自評＞
・授業に慣れて、がんばろうと場の設定など変更があっても子どもがよく動いた。
・楽しい遊びと技能の両立の中で遊びを見つける困難さがあった。

☆「勉強になった！」ポイント☆

どの学年でも共通する「場の工夫」と「安全」の両立。様々な仕掛けがあるだけ、そのリスクを検討しながら授業を作ること。そして低学年には遊ばせながら運動を獲得できるようにする声掛けが勉強になりました。

指導・講評

国立教育政策研究所　教科調査官

＜運動遊びの授業づくりについて＞
・身に付けたい力を遊びの中に取り入れた授業を目指す。高学年は技能を獲得するために直接的な指導を行うが、低学年は遊びの要素を取り入れて運動の楽しさを味わいながら間接的に運動のコツを獲得できるようにすることが必要である。今回のマット運動では、ゆりかごをペアで立ってハイタッチしたり、肋木に足をかけて手の平で支えながら横に移動し前転したりするなどとできるとより楽しく安全に遊ぶことができた。

よかったところ

☆低学年への細やかな配慮

場の準備のために、どこに何をもっていくのか目印が分かりやすい。結果として運動量の確保につながる。

☆教師の言葉がけ

服装の指導、「手を着くことが基本」など、大切なことははじめに全体で確認したところ。「真っすぐ転がる」→「マットから出ないように」と言い換えることで運動遊びへ。

今後に向けて

★主運動につながる運動場面

補助運動でブリッジができないけれど、次の運動場面へ。結果として出来ない状態のままになっているため、成功体験を得られるように個の対応を行う。そのために音楽をかけて児童が切り替えやすくすることで、先生が補助をして今できていない子に関わる時間を作れる。

キラリと光る付箋

＜資料・動画＞
・ホワイトボードに島の位置やマットの場所、置き方が書いており、分かりやすかった。
・動きの説明があり、スムーズに遊びをしていた。
＜グループ分け＞
・グループ構成が良く、どこも楽しそうだった。やってみタイムで児童の動きが良くなった。
＜伝えタイム＞
・動きの中で伝え合うのは難しいため、話型があるともっと良くなる。
＜教師の声掛け＞
・一人一人丁寧に声掛けをしていた。低学年でどこまで指導していくか。
(ex)着地や着手、その他の技能面

日々の体育の学習の中でどの学年でどこまで指導するのか、学校として決めておかなければいけないことだと感じている。話題提供授業を通して見えてきた成果や課題を基にして、６年間を見据えた体育の指導内容を考えていきたい。
今回の授業では、テーマ設定がとても重要に思えた。低学年の体育は「遊び」なので、児童をいかにして楽しませながら取り組めるか、それは中・高学年にも共通して言えることである。